

# 國學院大學學術情報リポジトリ

中国語を母語とする日本語学習者の日中同形異義語  
における誤用を減らすための提案：  
同形語の理解についての調査結果を踏まえて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 顧, 偉長 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000867">https://doi.org/10.57529/00000867</a>

# 中国語を母語とする日本語学習者の 日中同形異義語における誤用を減らすための提案 — 同形語の理解についての調査結果を踏まえて —

顧 偉長

## 1. はじめに

日中同形語の存在は中国人学習者の日本語学習上に正の言語転移を与える一方、同形語の意味の差異に注意しないことで、負の転移も生じ、様々な誤用問題が生まれる。

そこで、筆者は、中国人学習者が多く誤用している O 型同形語（日本語と中国語との意味の一部が異なる）と D 型同形語（日本語と中国語との意味が全く異なる）に目を向け、同形異義語誤用に関する先行研究で明らかにされていない、O(3)型同形語（同形異義語の分類法と意味構成は次章で説明する）の中の共有義＋中国語独自義が中国人学習者に与える影響、また同形語の意味についての両言語の対照に関する情報を学習者に提示することで、各タイプの同形異義語における誤用に減少傾向が見られるかどうかを検討した。調査は O 型(O(1)型、O(2)型、O(3)型、)と D 型の 4 タイプの同形異義語を用いて、それぞれ同形語の対照に関する情報を提示しない段階と提示した後との二段階に分けて行った。

結果として、共有義のある O(3)型における誤用率は共有義のない D 型より中上級とも低いこと、また、同形語の対照に関する情報を学習者に提示することで、4 タイプの同形語における誤用率はいずれも減少し、特に O(1)型における誤用は有意な減少傾向が見られることが分かった。

以上の成果をもとに、本稿の最後では、学習者、教授者、補充教材の 3 つの視点から、中国人学習者向けの同形異義語学習法の提案を試みる。

## 2. 先行研究

### 2.1 同形異義語の分類について

日中同形語の分類法は視点によって様々なものが提案されている、文化庁(1978)では、日中両言語の意味の比較に基づき、同形語を日中両言語の意味がほぼ同じ S(Same)型、日中両言語の意味の一部が共通している O(Overlap)型、日中両言語の意味が全く違う D(Different)型に 3 つに分類されているが、王(2015)は、日中同形語に関する対照研究や習得研究によく使用されている代表的な辞書・専門書（王ほか(2007)、郭ほか(2011)）を

検討し、以下の分類法を提案している。すなわち、同型語を、Same, Similar(SS 型) [意味が同じか、近い語]、Overlap(O 型) [意味が部分的に重なる語]、Different(D 型) [意味が異なる語]と大別した上で、O 型をさらに3 分類するというものである。このO 型の三分については、上の王ほか(2007)、郭ほか(2011)と同様であり、下記の通りである。

O(1)型は日中両言語の意味の一部が重なっているが、日本語に独自の意味があるもの。

O(2)型は日中両言語の意味の一部が重なっているが、中国語に独自の意味があるもの。

O(3)型は日中両言語の意味の一部が重なっているが、日本語と中国語にはそれぞれ独自義があるもの。

O(1)型、O(2)型、O(3)型及びD型のイメージと語例を表にして示す。

表1：日中同形異義語分類表

タイプ	特徴	イメージ	語例
O 型 同形 語	O(1)型 日中両言語における意味の一部が重なっているが、日本語に独自義があるもの		外交 財政 感激 景気 体験 適當 宣言 人手 実力 震源
	O(2)型 日中両言語における意味の一部が重なっているが、中国語に独自義があるもの		愛好 意外 温暖 活動 関心 下流 寛大 認定 解決 正面
	O(3)型 日中両言語における意味の一部が重なっているが、日本語と中国語にそれぞれ独自義があるもの		解釈 建設 関係 回復 裁判 下水 表示 文化 経理 開花
D 型同形語	意味の異なる語、中国語と日本語それぞれ異なる意味があるもの		改行 被害 交代 境界 出世 進出 新聞 工夫 快活 了解

なお、上表の「イメージ」のところの、「同」は日中両言語の意味が重なる部分、「中」は中国語独自義、「日」は日本語独自義を表す。

本研究では、以下、この王 (2015) の分類にしたがって、分析・考察を行う。

## 2.2 同形異義語の習得についての先行研究

陳(2003)は、中国語母語話者を対象に、同形語の意味習得と、日本語習熟度との関係について検討している。その結果、中国人学習者にとって、初級の段階ではD型が最も理解し難く、D型同形語の意味について、既習語の場合は、学習者はすぐ判断できるが、既習語でない場合、母語の知識に頼って判断してしまうことを明らかにしている。つまり、D型同形語の意味判断には学習者の習熟度が大きく関わっているわけである。

加藤(2005)は、中国語を母語とする日本語学習者のO型、D型における習得について、D型を使用した誤用文に対する判断は、初級の段階では正答率が低いが、習熟度が向上すると、中国語義から日本語への負の転移が減少することを明らかにしている。また、O(1)型の日本語独自義については、日本語習熟度の上昇に伴い、習得が進む傾向が見られるが、上級になっても正答率が低いなど、習得の難しさが見られることも指摘している。さらにO(2)型の中国語独自義については、日本語への過剰転移が多いことも明らかにしている。

小森ほか(2008)では陳(2003)と加藤(2005)の知見に基づき、中国人学習者の日本語習熟度の変化がO型語やD型語の認知処理過程に与える影響を検討している。O語とD語を用いて、中国語としては成立するが、日本語では成立しない文を作成し、正誤判断調査を行っている。その結果、中国人学習者は同形語を判断する時、日本語習熟度が上級であっても、中国語義の活性化が強く、日本語としての同形語処理に影響を及ぼしやすいことを明らかにしている。しかし、日本語習熟度の高い学習者は中国語義の負の転移を一定的に抑制できるため、同形語を正しく理解、産出することができるようになる。この結果から、日本語習熟度の高い学習者と低い学習者との差異は、心内における処理過程の活性化の違いではなく、言語を実際に使用する場面で母語の影響を正しく抑制して、日本語義を想起できるか否かの差であると指摘している。

また、O(2)型語とD型語の直接比較の結果から、中級から上級の段階で、共有義のあるO(2)語の方が、共有義のないD語より誤答率が高いことが分かったという。この結果から、小森ほか(2008)は共有義の存在が母語転移を引き起こし、共有義のない同形語より中国語義が活性化しやすく、同形語における意味処理に負の影響をもたらす可能性があると述べている。

### 2.3 中国人学習者の同形語における誤用を減らすことについての先行研究

中国人日本語学習者の日中同形語における誤用を減らすために、河住(2005)は日中両言語における漢語の用法や相違を明らかにし、適切な指導を行うことや、日中同形語の差異に関する情報を提供し、教材を改善することが中国人学習者向けの日本語教育ではとても重要であると述べている。

具体的な指導方法の提案として、李(2006)は中国人学習者が日本語の漢語の概念を形成する前に、意味や共起情報、用法について日中両言語の対照に関する情報を提示する必要があると述べている。例として「最近」という同形語をあげ、中国語の方が意味、用法が日本語より広いことに注意させるべきであるとしている。また、同形語の共通意味を「比較的近い過去から現在に至るまでの時間」とし、「これから先の時間」という意味は中国語にしかないと教えるべきであると提唱している。

また、李(2006)は日本語辞書、中国人日本語教授者の日本語漢語についての教え方の改善を提案し、日中両言語の比較研究および指導がより活発に行われるべきであるとも述べている。

### 2.4 先行研究の問題点

日中同形異義語に関する先行研究について、主として以下の二つの問題点が指摘できる。

1. 0(3)型についての研究が充分であるとは言えない。

これまで行われた研究では、0(1)型、0(2)型、D型同形語について、中国人学習者の母語干渉が習熟度の変化によりどのような影響を及ぼすかについて検討されてきた。一方、管見の限りでは、同形語の中の0(3)型同形語群について、共有義と中国語独自義の二重の要因が中国人学習者にどのように影響するのかについての研究はまだない。

2. 同形語の対照情報提示が誤用に与える影響に関する研究が少ない。

同形語の対照情報、使い分けなどを学習者に予め提示することで、中国人の日中同形語における誤用が有意に減るかどうかについて、実証した研究は筆者の知る限り、ない。

## 3. 本研究の目的と研究課題

本研究では「中国人学習者の日中同形語習得」の視点から、同形語学習法を提案することを目的に、以下の二つのリサーチクエスチョンを立てる。

RQ1： 0(3)型同形語の共有義+中国語独自義が中国人学習者にどのような影響をもたらすか。

中国人日本語学習者の0(3)型（共有義+日本語独自義+中国語独自義）における認知処理において、共有義+中国語独自義の存在から母語転移が引き起こされ、日本語への意味処理に負の言語転移が発生する。結果として、共有義のないD型より中国語義が活性化しやすく、誤用がD型より多く見られると予想される。

RQ2：同形語の対照情報の提示は同形語誤用の減少に効果があるか。

中国人日本語学習者は0(1)型、0(2)型、0(3)型、D型の4タイプの日中同形語において、タイプごとに意味の違いなど、両言語の対照情報を提示されることで、中国語義による干渉が一定の範囲で抑制され、結果として、中上級とも、各タイプの同形語における誤用が提示前より減少すると予想される。

以上の二つのリサーチクエスチョンを検証するため、調査を行う。調査は調査1、調査2の二段階に分け、二つの仮説に基づいて、分析、考察を行う。

## 4. 研究方法

### 4.1 調査の概要

本調査では、0(1)型の語を含む文、0(2)型の語を含む文、0(3)型の語を含む文、D型の語を含む文をそれぞれ調査協力者に提示し、文の適否を判断してもらう。0(1)型での問題文は、日本語としては正しいが、中国語義を使って判断すると不正解となる文である。一方、0(2)型、0(3)型、D型の問題文は、中国語としては成立するが、日本語としては成立しない文である。

調査1と調査2は同じ問題文を使い、この間、調査2を行う前に、日中両言語の違いについて関心を喚起する情報を提供する。

### 4.2 問題文の例と作成のしかた

以下、各タイプの問題文の例を1例ずつあげておく。

0(1)型（共有義+日本語独自義）

友達は銀行の外交員をやっている。

0(2)型（共有義+中国語独自義）

意外を防ぐため、夜間の警備員を増やした。

0(3)型（共有義+日本語独自義+中国語独自義）

事情は全部聞いたので、これ以上解釈する必要はない。

## D 型（日本語独自義＋中国語独自義）

経済改革に国外の状況をよく了解することは不可欠だ。

本研究の調査対象語は、中国で広く使われている日本語教材『新版日中交流標準日本語中級』<sup>1</sup>上下二冊から筆者が同形異義語を抽出し、0型（01、02、03）、D型の4タイプに分類した上で、国立国語研究所(2015)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙表の短単位語彙表データ(閲覧日：2019年7月1日)を参照し、使用頻度の高い語をタイプごとに10語抽出し、問題を作成した。問題の作成には、Google社のGoogleフォーム機能を使い、事前に作成した調査票にしたがって設問の入力を行った。1タイプ10問、4タイプで計40問、各設問に対し、回答は、「自然、やや自然、どちらとも言えない、やや不自然、不自然」の5つの選択肢から選ぶ方法で調査を行った（調査内容は論文末の資料を参照）。

### 4.3 第二回調査の前に調査協力者に提示する情報の例

第二段階の調査では、両言語の違いについて関心を喚起する情報を提示することの効果を検証するため、事前に、0(1)型、0(2)型、0(3)型、D型の4タイプそれぞれ1個の解答例を調査協力者に提示した。解答例のところに、問題と意味説明の形で、4タイプの同形異義語のそれぞれの意味構成（共有義、日本語独自義、中国語独自義）を説明し、そして、日中両言語におけるそれぞれの意味を使った例文も提示した。また、問題文を解答する前に、よく解答例のページを確認するように、調査協力者に呼びかけた。解答例の一部（0(1)型）を以下の表2に示す。

表2：調査2解答例（同形語の対照情報提示）

解答例：1、研究者は研究に愛情を注ぐものだ。（愛情）				0(1)型同形語
自然	やや自然	どちらとも言えない	やや不自然	不自然
対照情報：「愛情」 あいじょう 0(1)型同形語（共有義＋日本語独自義）				
共有義：異性、相手を思い慕う気持ち。 例文：二人は深い愛情で結ばれている。			日本語独自義：人や物に注ぐ温かな気持ち。 例文：愛情を込めて、料理を作る。	

### 4.4 調査目標

二段階の調査ではそれぞれ別の目標を設定した。

第一段階の目的は、今まで究明されていない、0(3)型同形語の共有義と中国語独自義の意味構成から、中国人学習者への母語転移の影響を明らかにすることである。

第二段階の目的は、第一段階実施のあとで調査協力者に日中両言語の違いについて関心

を喚起する情報を提示することにより、各タイプの同形語における誤用に減少傾向が見られるかどうかを明らかにすることである。

#### 4.5 調査協力者

本研究を進めるにあたっての調査協力者は全員『新標準日本語中級』をメイン教材として使用した中国人日本語中上級学習者である。その内訳は、日本語中級学習者(日本語能力試験 2 級合格者)15 名(男性 6 名、女性 9 名)と上級学習者(日本語能力試験 1 級合格者)15 名(男性 7 名、女性 8 名)である。年齢は 19 歳から 27 歳で、平均年齢は 22 歳 8 ヶ月。日本語学習歴は 2 年から 6 年で、調査協力者はいずれも現在日本の教育機関に在籍する学習者である。

#### 4.6 調査期間・場所

調査は二段階に分けて行った。調査はオンラインで依頼し、調査基準を満たす協力者に調査用のリンクを送り、それに回答してもらうという形式で行った(調査用オンラインページは携帯電話、パソコン両方で開ける設定となっている)。

第 1 回調査期間：2019 年 7 月 19 日から 2019 年 8 月 3 日。

第 2 回調査期間：2019 年 8 月 31 日から 2019 年 9 月 14 日。

### 5. 調査結果

#### 5.1.1 点数の設定の仕方

調査 1 は、中国人日本語学習者の日中同形語における各タイプでの誤用実態、特に 0(3)型同形語の中の共有義と中国語独自義が学習者に与える影響について調査するものである。

調査結果を分析するために、5 つの選択肢にそれぞれ 5~1 点の異なる点数を設定した。0(1)型での問題文は、日本語としては正しいが、中国語義を使って判断すると不正解となる文である。したがって、日本語として正答となる「自然」を 5 点、日本語として不正解となる「不自然」を 1 点とし、順に点数を設定している。一方、0(2)型、0(3)型、D 型の問題文は、中国語としては成立するが、日本語としては成立しない文である。したがって、日本語として正答となる「不自然」を 5 点、日本語として不正解となる「自然」を 1 点とし、順に点数を設定している。得点が高いほど、母語による負の言語転移が抑制され、誤用が少ないことを意味する。

なお、調査データの信頼性を保つため、協力者全員が実在の日本教育機関在籍者である



ことを確認し(調査協力者に在籍情報、日本語学習歴、日本語能力レベルなどの情報を確認した)、また、1111、1234 のような、真面目に答えてないと見られる解答を分析対象から除外した。

### 5.1.2 調査1の結果及び0(1)型、0(2)型の比較

調査1の結果を以下の表3に示す。

表3：日中同形語の4種別における平均得点と標準偏差

各タイプにおける平均得点及び標準偏差 (調査1)				
タイプ	日本語能力			
	中級学習者		上級学習者	
	M	SD	M	SD
01型	2.76	0.33	3	0.36
02型	2.5	0.8	3.44	0.68
03型	2.89	0.86	3.53	0.72
D型	2.76	1.03	3.35	0.88

注：Mは平均値、SDは標準偏差を表す。

まず、日本語習熟度の向上が同形語の誤用に与える影響を明らかにするため、0(1)型、0(2)型における結果について日本語能力レベルによる一元配置分散分析を行ったところ、0(1)型 ( $F(1, 28)=3.583, n. s.$ ) 0(2)型 ( $F(1, 28)=11.99, p<.01$ ) という結果が得られた。0(2)型での誤用は日本語習熟度の向上で有意に減少するが、0(1)型における誤用は有意な減少傾向が見られないことから、0(1)型は日本語習熟度に関わらず習得が難しいことがわかる。

### 5.1.3 0(3)型とD型の比較

RQ1の目的は、0(3)型同形語における共有義と中国語義が学習者に与える影響を明らかにすることである。

調査1では、0(3)型における誤用率は中上級とも共有義のないD型より低い結果が得られた。また、日本語習熟度の向上により、0(3)型同形語群における誤用の有意な減少傾向が確認された ( $F(1, 28)=4.931, P<.05$ )。一方、D型における誤用実態について、日本語能力による分散分析の結果から、中上級の間には有意差は見られなかった ( $F(1, 28)=2.785, n. s.$ )。

小森ほか(2008)では0(2)型とD型の間で分散分析を行った結果、日本語習熟度下位群・上位群とも、0(2)型の方がD型より誤答率が有意に高いことを明らかにしている。この結果から、小森ほか(2008)は中国人学習者が共有義のある0型を認知処理する際に、中国語

義が活性化しやすく、共有義のないD型より認知処理が困難なのであろうと考察している。しかし、調査1で0(3)型における誤用率は、共有義のないD型に比べて、中上級とも低い結果が得られ、また、日本語習熟度の向上により、0(3)型における誤用率は有意な減少傾向が見られた。すなわち、調査1の結果は、小森ほか(2008)の分析を支持しないものとなっている。

0(3)型とD型における平均点をグラフ化したものが以下の図1である。

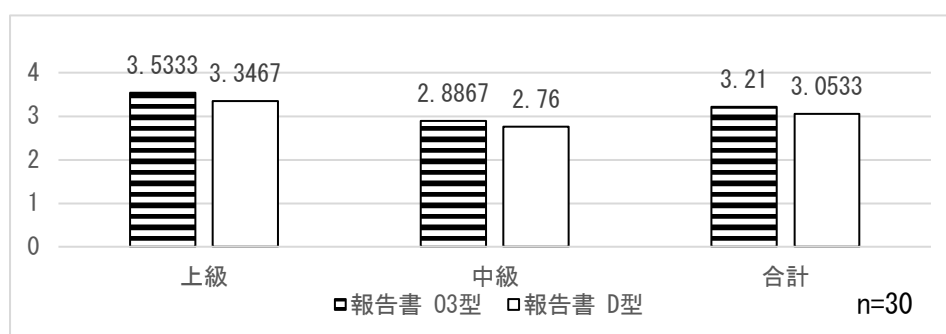


図1：0(3)型とD型の比較

## 5.2 調査2

調査2の目的は、李(2006)、河住(2005)の提案を受け、中国人学習者に、意味や共起情報、用法など日中両言語の対照情報を提示することで、同形語における誤用を減らせるかを検証することにある。なお、調査2の問題文と点数の設定は調査1と同様である。

調査の結果を表4に示す。

表4：日中同形語の4種別における平均得点と標準偏差

各タイプにおける平均得点及び標準偏差 (調査2)				
タイプ	日本語能力			
	中級学習者		上級学習者	
	M	SD	M	SD
01型	3.27	0.66	3.51	0.86
02型	2.75	0.74	3.5	0.89
03型	2.91	0.83	3.58	0.76
D型	2.92	0.8	3.63	0.74

注：Mは平均値、SDは標準偏差を表す。

4タイプの同形異義語に対し、日本語能力レベルによる一元配置分散分析を行なった結果、0(1)型では、中級から上級に上がると平均得点は上がったものの、有意差は見られず ( $F(1, 28) = .696, n. s.$ )、調査1での0(1)型の結果と同傾向が見られた。また、0(2)型同形語では、中級から上級の習熟度の向上で、誤用は有意に減少した ( $F(1, 28) = 6.347, p < .05$ )。

0(3)型同形語では、共有義+日本語独自義+中国語独自義の意味構成において、中上級の間で分散分析を行なった結果、有意差が見られた( $F(1, 28)=5.344, p<.05$ )。0(2)型と同様、日本語習熟度の向上に伴い、習得が進む傾向が見られる。共有義のないD型同形語は、調査1と異なり、中級から上級に上がると、平均得点が上がリ、その得点には有意差が確認された( $F(1, 28)=6.256, p<.05$ )。

### 5.3 調査1と調査2の比較

RQ2の目的は、中国人学習者に日中同形語の対照情報を提示することで、各タイプの同形異義語における誤用に減少傾向が見られるかどうかを明らかにすることである。調査1は対照情報を提示せずに行い、調査2は対照情報を提示した上で行った(対照情報の提示方法は表2を参照)。平均得点の比較から、対照情報提示が同形語誤用に影響を与えることがわかった。

まず、同形語の対照情報を提示した調査2の平均得点は全タイプ、中上級とも対照情報を提示しない調査1より高いことが分かった。また、0(1)型、0(2)型、0(3)型、D型の4タイプの同形語に対し、前後二段階の点差に対応のあるt検定を行った。その結果は、0(1)型( $t(29)=-3.232, p<.01$ )、0(2)型( $t(29)=-.585, p=.563$ )、0(3)型( $t(29)=-.159, p=.874$ )、D型( $t(29)=-.864, p=.394$ )であった。調査2の結果から、同形語の対照情報を学習者に提示することで、4タイプの誤用率が減少し、特に0(1)型における誤用率は有意な減少傾向が確認されることが明らかになった。この結果は、同形語の対象情報を学習者に提示することが、中国人学習者の同形異義語における誤用を減らすために一定の効果があることを示している。一方、0(1)型以外の同形語群において、誤用率は対照情報を提示した場合よりしない場合の方が低くなるが、有意な減少傾向が確認されないことから、対照情報の提示法の改善などが必要であると考えられる。

図2は、調査1と調査2の平均点をグラフ化したものである。

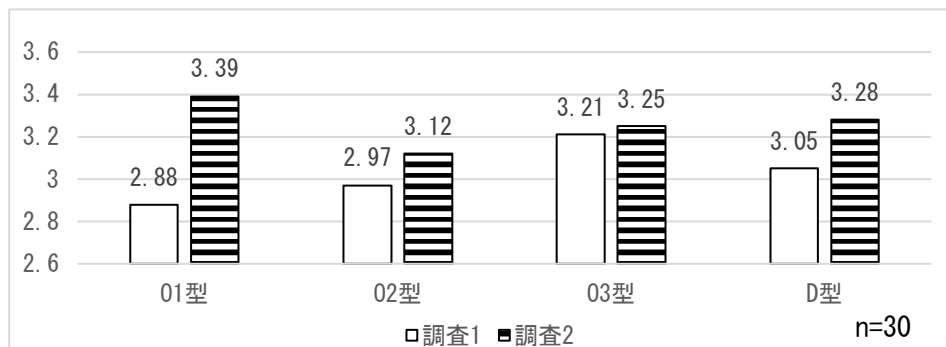


図2 調査1と調査2の平均点の比較

## 6. 結果の考察

図2に示したように、0(1)型同形語における平均点は、調査1に比べて、調査2では大幅に上昇する傾向が見られる。前後二段階の点差に対応のあるt検定を行なった結果、調査2での誤用率は有意に減少することが分かった ( $t(29) = -3.232, p < .01$ )。

0(1)型における誤用が有意に減少した原因については、学習者自身が母語からの負の転移を意識し、中国語義の活性化が抑制されたことにあると考える。費(2015)は中国人日本語学習者の日本語習熟度に関係なく、形態類似性の高い単語は母語と第二言語で同様の処理過程をもつと指摘している。このことから、調査1では、学習者が判断する際に、0(1)型での問題文は中国語義としては成立しないため、母語中国語の活性化によって、「不自然」を選ぶ可能性が高いと推定される。一方、調査2においては、問題1から10の考察用語の対照情報を「共有義と日本語独自義」と、学習者に明示することで、「共有義」以外に、「日本語独自義」という新たな選択肢を示した。これによって、「中国語義ではない、日本語独自義である」と学習者が判断する可能性が高まり、母語への負の言語転移が抑えられ、正しく選択できるようになったと考えられる。

これに比べて、0(2)型、0(3)型同形語における誤用率は対照情報の提示より減少したが、有意な減少傾向は確認できない。この原因については、加藤(2005)が示した、中国語義から日本語への過剰転用が多いことに関連すると考えられる。日本語習熟度が比較的低い段階では、中国語独自義は日本語には通用しないことを認識しにくいいため、中国語義から日本語への負の転移が生じやすい。また、共有義は頻用義であるため、中国語義として適用することは、中国語独自義ではなく、共有義であると判断する可能性があると考えられる。

また、共有義のないD型における誤用率は、同形語の対照情報提示により減少する傾向が見られた。この原因については、李(2006)が示したように、D型同形語における誤用率は、既習語かどうかが大きく影響するためと考えられる。D型語における設問は、日本語習熟度中級から上級の段階で、未習語から既習語へ転換する可能性があるため、学習者の習熟度の向上に伴い、常に中国語義は日本語義としては成立しないことを意識し、うまく判断できるようになったと考えられる。「日本語独自義+中国語独自義」のような対照情報の提示は、学習者に未習から既習の心内処理過程を加速させたと推測される。中級学習者は上級学習者より未習語が多い可能性が高く、D型同形語の対照情報(日本語独自義+中国語独自義)を提示しても、調査語が中国語独自義であると認識することは上級より難しいと考えられる。一方、上級になると、問題文で使われた調査用語は既習語である可能性が

中級より高いため、既習語を処理する経験から、意味を知らない未習語であっても、既習語と同様、中国語義が日本語義として成立しないと判断する可能性が高いと考えられる。

本調査の結果から、同形語の対照情報を提示することは、0(1)型同形語をはじめ同形異義語における誤用を減らすのに効果があると考えられる。また、中国人学習者が誤用しやすい0型とD型同形語における誤用をより効率よく減らすには、同形語の対照情報提示の仕方の改善や、対照情報提示を含めた同形異義語学習法の開発も重要であると指摘したい。

## 7. 日中同形異義語学習についての提案

学習者に同形語の対照情報を提示することで、4タイプ、中上級とも、調査1より調査2の誤用率が減少した。その中で、特に誤用が多いと言われる0(1)型同形語において、誤用率は有意な減少傾向が確認された。この結果から、同形異義語の対照情報提示は誤用を減らすために効果があることが確認できた。

本調査の結果を踏まえて、以下、学習者、教授者、教材の三つの視点から、中国人学習者向けの同形異義語学習法を提案する。

### 7.1 学習者側について

中国人学習者は、同形語を学習する際に、習熟度に関係なく、中国語義を使って理解する可能性が高い。李(2006)は中国で出版された日本語教科書も、漢字または漢字と振り仮名の形が一般的で、同形語を学習する際に、学習者が目にするのは日本語ではなく、漢語になってしまうため、中国語の知識を使って恣意的に理解する可能性があるとしている。

このような傾向を避けるために、「日本語と中国語は通じる」という先入観を捨て、常に日本語は外国語であり、学習者自身にとっては新たな言語であると注意する必要がある。例えば、調査1と調査2で共に誤答が多い、0(1)型の「実力」という同形語は、調査1で30人の内23名、調査2では30人の内21名が正解と反対の「不自然」、「やや不自然」を選択した。誤答が多く生まれた原因について、「実力」という単語は、日中共同義の「実際に持っている能力」の意味を持つほか、日本語独自義として「武力や腕力」の意味もあるためであると考えられる。見た目が簡単な単語でも、日中両言語における意味の差を注意しなければ、誤用が多く生まれる。

中国語義で理解することを避けるほか、常に辞書を引いて、使い方や意味を確認することも必要である。「実力」のような同形語を学習する際に、気軽に辞書を調べ、共同義の「実際に持っている能力」と日本語独自義の「武力や腕力」の形で、日本語と中国語における

それぞれの意味や用法を確認すれば、誤答が大幅に減る可能性があると考えられる。

## 7.2 教授者側について

教授者側としては、李(2006)、河住(2005)が述べているように、同形語を教える前に、中国語の中で存在するかどうかを確認し、授業の前に意味や用法、使い分けなどを調べて授業に臨む必要がある。中国の日本語教授者は、中国語と日本語における漢字単語の大半は同形同義であるため、「詳細に説明しなくても学習者にとっては理解できる」という先入観を持っている。同形語における誤用問題を減らすために、教授者側としても、日中同形語の指導の重要性についての意識を高めなければならない。

提案として、調査1と調査2のように、学習者に同形語の意味や対照情報などを教える前に、まずは提示なしの条件でテストを行う方法を提案する。テストを実行した後、出題した語の意味や、両言語の違いについての情報をヒントとして提示し(例えば、表2「調査2解答例」のように)、自己採点の形で、学習者が自ら誤答を見つける。「中国語の意味は時に日本語の意味と違う」という認識を学習者の中に定着させ、その後日中同形語のタイプや対照情報を説明した方が、より効果的であると考えられる。

学習者に同形語の分類法を理解させ、それと同時に、授業で同形異義語辞書などの補充教材を導入し、学習者が同形語に遭遇したら、意味用法を確認する習慣をつけさせることも重要である。授業内の時間に同形語の意味、タイプなどを十分に教えることは難しいため、学習者が未習の同形語に出会っても、自ら意味を調べ、同形語の意味構成から分析していく力が必要である。

## 7.3 補充教材の開発

日中同形語における誤用問題を減らすため、同形異義語を中心とした補充教材の開発も重要である。

一種の補充教材の提案として、筆者は、『新版日中交流標準日本語中級』上下二冊から二文字同形語を抽出し、同形語辞書(王ほか(2007)、郭ほか(2011))または一般辞書で提示された意味、用法、対照情報をまとめた上で、中国人学習者向けの同形異義語参照リストを作成した。この同形語リストにおいては、王ほか(2007)、郭ほか(2011)で提示された例文を参照し、日中両言語におけるそれぞれの意味や用法などの対照情報や例文を提示した。

調査2の結果から、同形語の対照情報提示は、0(1)型同形語をはじめ、同形異義語における誤用減少に効果があることがわかった。教授者側として、学習者の手元で使われる日

本語教材と合わせた補充教材を自ら作成し、活用すれば、同形語における習得はより効率的に進むと思われる。学習者が自習する場合も、このような補充教材を活用することで、同形語における誤用は減らしていくことができる。

## 8. まとめ

本研究は二段階の調査で、0(3)型をはじめ4タイプの同形異義語における誤用と日本語習熟度との関係や、同形語の対照情報を提示することが同形語の誤用減少に寄与するかという問題について検討した。調査の結果からリサーチクエスチョンへの答えは以下の通りである。

RQ1：0(3)型同形語の共有義+中国語独自義が中国人学習者にどのような影響をもたらすか。

調査1の結果から、共有義のある0(3)型同形語の誤用率は、共有義のないD型に比べて、中上級とも低い結果が得られた。この結果から、共有義のある0型同形語が共有義のないD型より認知処理が困難であるとは証明されなかった。

RQ2：同形語の対照情報提示は同形語の誤用の減少に効果があるか。

同形異義語の対照情報を提示することで、各タイプでの誤用率は、中上級とも提示前より減少した。また、上級になっても誤用率が高いと言われる0(1)型同形語における誤用率は有意な減少傾向が確認された。この結果から、同形語の対照情報を示すことで、中国語義の活性化が一定の範囲で抑えられ、同形異義語における誤用の減少に効果があることがわかる。

また、同形異義語における誤用をより効率よく減らすため、対照情報提示のほか、学習者の同形語に対する認識の是正や教授者の授業準備、同形語の対照情報を含めた補充教材の開発なども不可欠であることをふまえ、中国人学習者向けの同形語学習法を提案した。

## 9. 今後の課題

本研究は、前後二段階に分けた量的調査を用いて、中国人中上級日本語学習者の同形異義語における習得の困難な点を検討し、また同形語の対照情報の提示が同形語の誤用減少に与える影響を検証したものである。中国人学習者向けの同形異義語学習法を構築するため、今後さらにデータ量を増やし、より詳細な、効率的な提示法を模索しなければならない。そこで、以下に未解決の問題点やさらに検討すべき点を今後の課題として提示する。

まず、0(1)型同形語の日本語独自義についてである。対照情報の提示後、0(1)型同形語

における誤答数が有意に減る現象は、中国語への負の転移を抑制したとも言えるが、学習者が同形語の中の日本語独自義の意味を正しく理解したとは言えない。特に難しいと言われる日本語独自義における誤用を減らすための、対照情報の提示を含めた補充教材や学習法の開発が重要な課題である。

次に、共有義の存在が同形語習得に与える影響については、調査1と調査2で得た傾向に不一致が見られる。共有義のあるO(3)型同形語における誤用率は、共有義のないD型の誤用率に比べて、調査1の段階では低く、調査2の段階で高くなることが見られる。同形語における共有義の存在が、日本語習熟度の異なる学習者に与える影響はどのようなものか、そして、対照情報など同形語の使い分けを提示した学習法において、共有義はどのような役割を果たすのか。これらのことを明らかにすることによって、同形語における誤用をより効率よく減らすことができると考える。

## 注

1 『新版中日交流標準日本語』は2008年に出版され、『中日交流標準日本語』を修正、添削した日本語教材である。日本語を独習する学習者と日本語を専攻とする者に愛用され、読者は1000万人を突破したという、日本語教材の代表の一つである。

## 参考文献

- 王燦娟 (2015) 「日中同形語辞典の問題点及びその改善策をめぐって」『芸術工学研究』22, pp. 59-65, 九州大学大学院芸術工学研究院紀要『芸術工学研究』編集委員会
- 加藤稔人 (2005) 「中国語母語話者による日本語の漢語習得—他言語話者との習得過程の違い—」『日本語教育』125, pp. 96-105, 日本語教育学会
- 河住有希子 (2005) 「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, pp. 53-65.
- 河住有希子 (2010) 「中国語母語話者による日中同形語の学習方法について」『JSL 漢字学習研究会誌』2, pp. 35-37.
- 甲斐睦朗、西尾瑛子、宮地裕 監修 (2014) 『新版中日交流標準日本語・中級』(上・下), 光村図書出版株式会社
- 国立国語研究所 (2015) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』短単位語彙表 (Version1.1)  
国立国語研究所コーパス開発センター



- 小森和子、玉岡賀津雄、近藤安月子（2008）「中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理：同形類義語と同形異義語を対象に」『日本語科学』23, pp. 81-94.
- 陳毓敏（2003）「中国語を母語とする日本語学習者の漢語習得について-同義語・類義語・異義語・脱落語の4タイプからの検討-」『平成15年度 日本語教育学会秋季大会予稿集』pp. 174-179, 日本語教育学会
- 費曉東（2015）「中国語を母語とする日本語学習者における日本語漢字単語の学習過程-中日2言語間の形態・音韻類似性による影響-」『学習システム研究』1, pp. 48-58, 広島大学学習システム促進研究センター
- 文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』 大蔵省印刷局
- 李愛華（2006）「中国人日本語学習による漢語の意味習得-日中同形語を対象に-」『筑波大学地域研究』26, pp. 185-203.

## 参考辞書

- 王永全、小玉新次郎、許昌福（2007）『日中同形異義語辞典』 東方書店
- 郭明輝、磯部祐子、谷内美江子（2011）『日中同形異義語 1500—日本語と中国語の意味をより深く理解するための』 国際語学社

付属資料

1、日中同形異義語参照リスト（一部）

あ

<p>● <b>愛好</b> あいこう（四＋中）「名」下 32 同義：あることを好み楽しむこと。 1、音楽愛好家。 2、サッカーを愛好する。 中：1、仕事や職業としてではなく、個人的な楽しみでしている事柄。 1、どんな趣味を持ちですか。 2、私の趣味は読書です。 2、得意いものを大切に思うこと。 1、自由を愛する。 2、平和を愛する。</p>	<p>● <b>愛情</b> あいじょう（四＋日）「名」上 13 同義：恋愛の情。 1、恋人に愛情を打ち明ける。 2、二人の間に愛情が生まれた。 日：人やものに注ぐ温かな気持ち。 1、母の愛情への恩返し。 2、自然に愛情を持つ人。</p>
<p>● <b>安心</b> あんしん（日＋中）「名」下 29 日：心に不安な要素がない、心配なくこと。 1、その点をご安心ください。 2、彼なら安心して任せられる。 中：心がしっかりと安定した様。 1、手術を終えたらゆっくりと休養されることを希望します。 2、彼は大学のゲーム好きで、落ちついて勉強することがない。</p>	<p>● <b>安静</b> あんせい（日＋中）「形」上 10 日：1、精神的に外界の影響を受けず穏やかな状態にあること。 1、指書を書くとき、心身の安静を保つことが極めて重要なことです。 2、病人が体を動かさず静かにしていること。 1、入院中はなるべく安静にしてください。 2、健康の回復には絶対安静が必要です。 中：1、場所や環境などが静かであること。 1、教室の中はとも静かだ。 2、気持ちや様子が穏やかで安らかなこと。 1、定年後はずっと穏やかな生活を送っている。 3、働き回ったり願ひだりせずに静かにすること。 1、皆さん、ちょっと静かにしてください。 2、授業が始めると、生徒達が静かになった。</p>

- 1 -

2、調査票における問題文

<b>調査表問題文</b>	
● 0(1)型（共有義＋日本語独自義）	
1、	友達は銀行の <u>外交員</u> をやっている。
2、	我が家の <u>財政</u> は火の車だ。
3、	素晴らし試合を見て深く <u>感激</u> した。
4、	彼は会社を辞めると <u>宣言</u> した。
5、	警察は座り込みの人々を <u>実力</u> で排除した。
6、	彼はいつも不 <u>景気</u> な顔をしている。
7、	噂の <u>震源</u> を探る。
8、	海外滞在の <u>体験</u> を生かし、国際交流活動に参加する。
9、	何ごとも <u>適当</u> に済ませるべきではない。
10、	あの人は何かあるとすぐ <u>人手</u> に頼る。
● 0(2)型（共有義＋中国語独自義）	
11、	<u>意外</u> を防ぐため、夜間の警備員を増やした。
12、	皆さんのご <u>関心</u> ありがとうございます。
13、	ご飯の後、すぐ <u>活動</u> しない方が良い。

14、彼は映画の中で <u>正面</u> 役を演じた。
15、彼女は嘘をつかない人だとみんな <u>認定</u> している。
16、彼はあの時に多くの助けを受け、友達の <u>温暖</u> を感じた。
17、攻めてきた全ての敵を <u>解決</u> した。
18、あなたはどんな <u>愛好</u> をお持ちですか。
19、女性の前でそのような <u>下流</u> な言葉を言うな。
20、妊婦さんは <u>寛大</u> な服を着ている。
● 0(3)型（共有義＋日本語独自義＋中国語独自義）
21、事情は全部聞いたので、これ以上 <u>解釈</u> する必要はない。
22、彼は彼女がとても好きだが、何の <u>表示</u> も見せなかった。
23、野球の <u>裁判</u> をする。
24、彼は <u>関係</u> を探して銀行に入った。
25、 <u>総経理</u> のご昇進おめでとうございます。
26、彼は <u>文化</u> のない人で、自分の名前も書けない。
27、彼は合格通知書を受け取り、嬉しくて満面に <u>開花</u> した。
28、 <u>回復</u> を受け取りました。
29、豚の <u>下水</u> を食べるのが好きな人が多い。
30、夫婦と一緒に幸せな家庭を <u>建設</u> する。
● D型（日本語独自義＋中国語独自義）
31、経済改革に国外の状況をよく <u>了解</u> することは不可欠だ。
32、内部関係者は自由に <u>進出</u> できる。
33、新世代製品堂々と <u>出世</u> した。
34、彼はテレビで今朝の <u>新聞</u> を見ました。
35、 <u>快活</u> な一日を過ごした。
36、彼は教員を辞めて商売畑に <u>改行</u> した。
37、彼の演技は完璧な境界に達した。
38、犯人は犯行を正直に <u>交代</u> した。
39、大統領候補者は自宅に帰る途中で <u>被害</u> された。
40、先生は古文の <u>工夫</u> が深い。